

関係各位

京都府病虫害防除所長  
( 公 印 省 略 )

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

発生予察注意報第 1 号

作物名：果樹全般（特にモモ、ナシ、カキ、カンキツ類）

病虫害名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシなど）

- 1 発生地域 : 全域
- 2 発生時期 : 7月中旬～8月下旬
- 3 発生量 : やや多い
- 4 注意報発表の根拠  
(1) 京田辺市の予察灯（B L 20W）におけるチャバネアオカメムシ（写真1）の誘殺数は、**7月上旬から急増している**（図1）。6月第3半旬から7月第2半旬までの合計値は143.0頭（平年値42.0頭）で、**平年比やや多い発生**であった（表1）。  
(2) 京丹後市弥栄町のフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、**7月上旬から急増している**（図2）。6月第3半旬から7月第2半旬までの合計値は22.4頭（平年値7.2頭）で、**平年比やや多い発生**であった（表2）。  
(3) 今年2月に実施した丹後地域のチャバネアオカメムシの**越冬量調査**では、1調査地点あたりの平均生存虫数は0.50頭（例年値0.24頭）で、**例年比やや多い発生**であった（表3）。  
(4) 京都市におけるスギ、ヒノキ花粉の飛散量は少なく（例年比42%、環境省4月5日集計）、果樹カメムシ類の餌となる球果量も少ないと予想される。そのため、**餌不足により新世代成虫の果樹園への飛来が多くなると予想される**。  
(5) 大阪管区气象台平成24年6月25日発表の向こう3か月の近畿地方の気象予報では、気温は平年並または高いと予想されており、今後、気温の上昇とともに果樹カメムシ類の活動が活発になり、果樹園への飛来、被害発生の増加が予想される。
- 5 防除上の注意事項  
(1) カメムシは夜行性であり、夕方の防除が有効である。  
(2) 被害は、園による差が大きく、また、園の周囲で多くなるなど多様である。園内外の成虫の発生状況などを常に観察し、飛来を認めたら防除する。特に、山林等の隣接園では注意する。  
(3) 合成ピレスロイド剤の連用は、ハダニ類やカイガラムシ類が多発する恐れがあるので避ける。  
(4) 防除薬剤を使用する際は使用基準を厳守すること。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと。

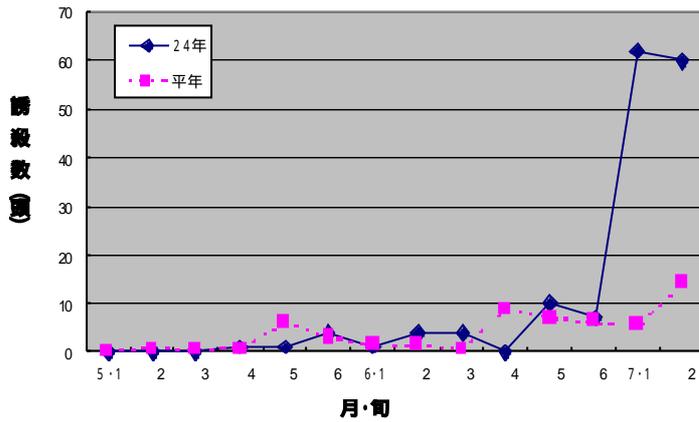


図1 予察灯(BL20W)におけるチャバネアオカメムシの誘殺数の推移(京田辺市)

表1 予察灯(BL20W)におけるチャバネアオカメムシ誘殺数(京田辺市)

年	誘殺数
H24	143
平年値	42
H23	0
H22	30
H21	1
H20	5
H19	1
H18	45
H17	1
H16	319
H15	0
H14	7

表中の数値は6月第3半旬から7月第2半旬までの合計値

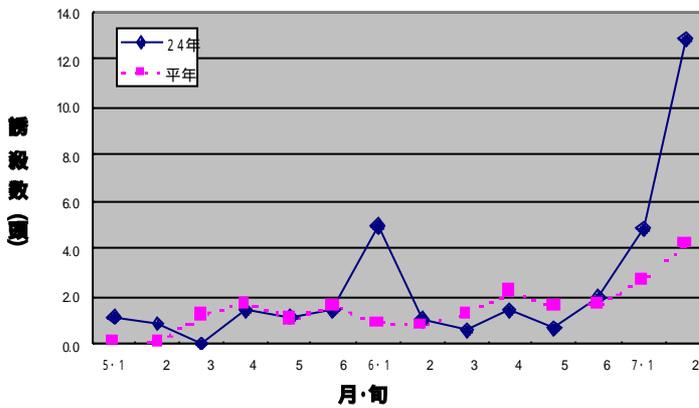


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数の推移(京丹後市弥栄町)

表2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数(京丹後市弥栄町)

年	誘殺数
H24	22.4
平年値	7.2
H23	4.0
H22	21.4
H21	4.6
H20	2.0
H19	1.0
H18	3.0
H17	2.0
H16	23.0
H15	0.0
H14	8.0

表中の数値は6月第3半旬から7月第2半旬までの合計値

表3 チャバネアオカメムシ越冬量調査(丹後地域)

年	平均生存虫数(頭/地点)
H24	0.50
例年値	0.24
H23	0.20
H22	0.80
H21	0.00
H20	0.20
H19	0.00

丹後地域の6か所で調査



写真1 チャバネアオカメムシ